令和６年度　ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版)　　北海道教育委員会

１　背景

・令和２年度から「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」を実施。
・研究推進校におけるオンデマンドによる学習支援の取組は、授業の履修としての取扱いでなく、あくまでも同時双方向型の授業に参加できなかった場合の学習の保障。
・有識者による検討会議において、学校設置者の違いを越えて周知を図る必要があることや、入院に限らず、自宅等において療養中の生徒に対しても遠隔教育による教育保障ができることについても周知を図る必要があるという意見。
・義務教育段階の病気療養中等の児童生徒については、都市部の専門病院に入院している児童生徒に対する訪問教育の拠点となる学校を域内の病弱特別支援学校に一元化。拠点校となる特別支援学校には、不定期に訪問教育を行う他地域の特別支援学校や自宅で療養中の児童生徒に対する教育を行っている小・中学校等に対する支援の充実に向け、全道域でのオンラインによる学習支援やオンデマンド教材の共有等の在り方についての研究が必要。

２　目的

ア　病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業の効果についての研究及び私立や他の自治体が設置する学校も含めた周知の促進
イ　病気療養中等の児童生徒に対する入院から自宅療養、復学までの切れ目のない教育保障体制の一層の充実
ウ　特別支援学校のセンター的機能の活用による、病弱教育の専門性を生かした高等学校への助言及び病気療養中等の生徒への教育相談体制の一層の充実

令和６年度　ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版)　　北海道教育委員会

3　実施内容

～研究推進校の取組から～

高等学校段階

対象となる生徒

校内規定で、対象となる生徒を定めます。
【例】
医師の診断書等の提出があった者で、年間を見通して、欠席日数が累積30日を越える見込みがあると校内員会で判断された者。

必要な機材

基本的な機材は、次のとおりです。
【学校】
Wi-Fi環境、パソコン、カメラ、三脚、延長コード
【対象生徒】
Wi-Fi環境、パソコン、プリンター、ヘッドセット

遠隔授業実施までの流れ

生徒・保護者	校内委員会		職員会議	
医師等の診断書、受講願をホームルーム担任に提出	支援方法の検討	支援方法を職員会議に提案	支援方法を審議し校長が決定	遠隔授業開始

遠隔授業実施当日の流れ

日直生徒が、授業場所にカメラを設置 → 日直生徒は、Google Meetを起動 → 教科担任は、対象生徒の姿を確認後、授業開始 → 対象生徒の姿が確認できない場合、教科担任は、カメラを起動し、動画撮影を開始

オンデマンド型の授業の準備

→ 授業後、教科担任は、動画データをYouTubeにアップロード

病状等により、対象生徒がオンライン授業を受けられないと学校が判断した場合、オンデマンド型の授業を実施することができます。

令和６年度　ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版)　　北海道教育委員会

３　実施内容　～研究推進校の取組から～

高等学校段階

出席確認の方法

学校の準備

○　遠隔授業開始時に、Googleスプレッドシートを活用して、「出席状況等確認シート」を作成（下図）。

○　シートをGoogleクラスルームに置き、対象生徒と教科担任がそれぞれアクセスできるように設定。

運用の仕方

○　授業後、対象生徒が授業内容等を入力。

○　教科担任が入力内容を確認して「出席」を認定。

	A	B	C	D	E	F
1	実施日	時間	科目	内容	提出物	質問・報告・メモ等
2	例）6/27	1時間目	科人	地震の原理について学んだ。液状化の実験を行い、液状化の原理とその防ぎ方について学んだ。	プリント①(クラスルームで提出済み) プリント②(後日紙で提出)	実験の様子が見づらかった。 海溝型地震の津波が起きる原理がわからなかったのでまた教えてほしい。
3	6/27	3時間目	言文	高名の木登りの内容について	ドキュメント(内容打ち込み提出)	プリント使用(7月5日とりくみ)
4	〃	2時間目	情Ⅰ	速度の練習とビジネス文書の書き方を学んだ	なし	
5	〃	Ⅰ時間目	数A	正方形の中の卵型の面積の求め方とテスト対策	なし	7月6日とりくみ
6	〃	4時間目	論表	それぞれ作ったスライド発表をしていた	スライド(提出済み) 原稿ドキュメント(提出済み)	
7	6/28	5時間目	家基	教科書の用語まとめをした。	プリント(後日提出)	

オンデマンド型の授業用動画コンテンツの管理方法

【YouTube限定公開による方法】

①　YouTubeにチャンネルを開設

②　教科ごとの再生リストを作成

③　再生リストをGoogleクラスルームで提示

動画コンテンツの再生リスト

全道への普及啓発

○　研究推進校以外の公立高校、私立高校の教員による事業報告会へのオブザーバー参加数：延べ131校180名

○　全ての道立高校のウェブページ上に、当課のウェブページ「病気療養中等の生徒に対する教育保障」のリンクを貼付。

○　医療関係者向けのリーフレットを道内の医療機関に配付し、院内の受信環境の整備について協力依頼。

令和６年度　ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版)　　北海道教育委員会

３　実施内容

～研究推進校の取組から～

義務教育段階

訪問教育で学ぶ入院中の児童生徒に対するオンデマンド型の授業の活用

病院訪問指導（対面）

週３回：１回２時間

年間授業日数（時数210時間）を標準

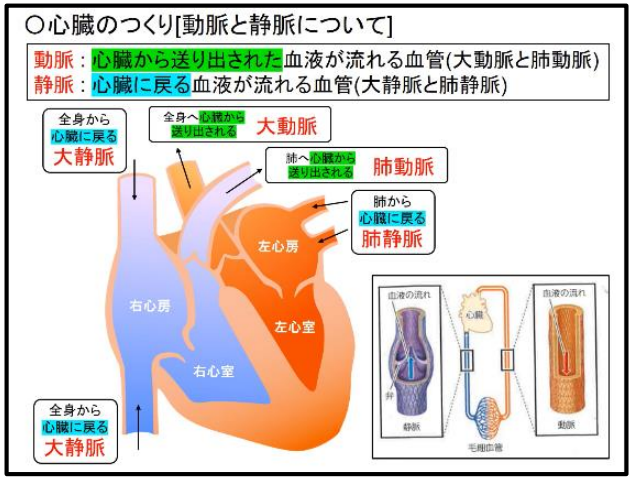
動画教材等を効果的に活用

欠席した授業の代替 → **動画教材の視聴による学習**
（理科・社会科の単元ごとの動画教材）
（録画したオンライン学習の動画）

体調に応じた主体的な学習 → **オンラインツールを活用した学習**
（教師とのデジタルデータによる課題の送受信）
（学習方法や課題の量の主体的な調整）

動画教材の作成例

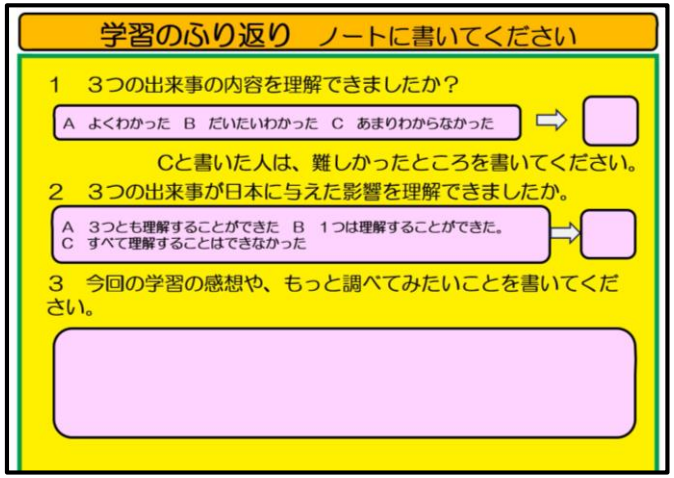
○　作成に使用したアプリケーションは「PowerPoint」



アニメーションと音声解説を交えて録画

動画の再生時間は15分程度となるよう調整

通信機器の使用制限がある場合はＤＶＤで送付



目標の確認や学習の振り返りができるよう構成を工夫

「Google フォーム」等を活用した課題と組み合わせることも有効

令和６年度　ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版)　　北海道教育委員会

４　成果・課題

【成果】

○　オンデマンド型の授業については、授業の録画データをYouTubeにアップロードする方法や、表計算ソフトを活用して対象生徒の出席確認をする方法など、実施方法のノウハウを得ることができた。

○　単位認定については、履修と修得を分けて考え、履修の機会を提供することを全道の高等学校に周知徹底することができた。

○　実技等の科目についても、観点別学習状況の評価を適切に行うことで、修得につなげられることを確認した。

○　対面授業の時数が限られる訪問教育学級においては、オンデマンド動画教材を授業に効果的に取り入れることで、日常的な学習内容の補完や授業への欠席が続いた際の学習保障につながることが確認できた。

【今後の取組】

○　医療機関向けリーフレットを配付するなど、関連団体との連携し、医療機関に対して受信環境の整備についての協力を依頼する。

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。
報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r05/1422837_00001.htm